

## 平成18年度体育専門学群における授業評価結果

近藤良享・西保 岳

### 1. はじめに

昨年(平成17年度)から開始された体育専門学群授業評価であるが、本年度はアスベスト・耐震補強工事により学群教室が2学期から使用できなくなるため、1学期開講の大型授業に実施科目を絞った形で行った。授業評価導入に関わる経緯、概要は、昨年度の報告に詳細が記されているので、本報告では、今年度の結果を中心に報告し、加えて昨年度との比較や今後の展望について述べることにする。

### 2. 授業評価実施要項

平成18年度の体育専門学群授業評価は、以下の実施要項に基づいて行われた。

1)目的：体育専門学群の授業を改善するために、学生による授業評価を行う。

2)対象科目：専門基礎科目・専門科目として開講されている科目で、原則として、平成17年度を受講生が100名以上の科目を基準に、以下の対象授業科目を選定した。

3)設問項目：設問は、以下のように、学生の自己評価と教員の授業評価に分けられ、Ⅲには自由記述枠を設けた。

#### I 学生の自己評価

##### ①出・欠席

全部出席 5 4 3 2 1 ほとんど出席していない

##### ②シラバス

全部読んだ 5 4 3 2 1 全く読まなかった

##### ③授業への取り組み

非常に積極的 5 4 3 2 1 非常に消極的

##### ④内容理解度

表1 授業評価対象科目一覧

平成18年度第1学期 体育専門学群授業評価対象科目

科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限
W840101	からだの構造	2	1	1	火2・金4
W820701	体育心理学	2	1	1	火3・水3
W830311	個人運動方法論Ⅰ	1	1	1	火4
W810101	体育科学入門Ⅰ	1	1	1	木1
W992205	テーピング、マッサージ	2	1	12	月3・集中

#### <2年次>

科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限
W820601	体育経営学	2	2	1	火4・木5
W841001	健康教育学	2	2	1	月4・金4
W720601	表現芸術論	1	2	1	水3
W840401	運動栄養生化学	1	2	1	木4

#### <3年次>

科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限
W540601	身体教育の社会学	1	3	1	火3
W750401	稽古論	1	3	1	木2
W750101	運動の観察と指導	1	3	1	月2
W640201	スポーツの比較文化史	1	3	1	火4
W720401	メンタルトレーニングの原理と方法	1	3	1	金1
9604501	教育内容・方法論Ⅰ	1	3	1	月1
W660201	キャンプカウンセリング	1	3	1	金2
W650101	加齢と健康スポーツ	1	3	1	金3

非常に良く理解 5 4 3 2 1 ほとんど理解できない

Ⅲ 自由記述 良かった点、改善が望ましい点

## Ⅱ 授業評価

## ⑤授業の計画性、工夫、準備、シラバスとの

整合性

非常に理想的 5 4 3 2 1 相当改善の余地

## ⑥教員の意欲

非常に意欲的 5 4 3 2 1 非常に消極的

## ⑦教え方、説明の明確さ

非常に明確 5 4 3 2 1 非常に曖昧

## ⑧学習環境(人数・教室規模など)

適正 5 4 3 2 1 相当改善の余地

## ⑨総合的な満足度

非常に満足 5 4 3 2 1 非常に不満足

4)実施時期：平成18年6月6日(火)～

7月2日(日)

5)調査の手順・調査票の集計：T Aが授業評価の実務を行い、実施は授業の終わり10分間程度を使用して行う。評価実施中、教員は教室から退席し、T Aが調査用紙の配布・説明・回収を行い、T Aが記入済み調査票を事務へ持参する。回収された調査票は事務でとりまとめて入力業者に納入され処理(個人、全体のデータ分析)する。

6)結果の分析：全体結果の分析は世話人教官が行い、学外への公表は筑波大学体育科学系紀要、報告書などを通じて行うと共に、個々の授業評価

表2 授業評価結果一覧

## 平成18年度体育専門学群における授業評価結果

No.	合計平均	Q-1	Q-2	Q-3	Q-4	Q-5	Q-6	Q-7	Q-8	Q-9
1	3.82	4.22	2.18	3.87	4.02	3.70	4.36	3.92	4.10	3.96
2	3.47	4.19	2.44	3.56	3.32	3.37	4.05	3.51	3.29	3.49
3	3.53	4.27	2.58	2.92	3.00	3.23	4.33	3.67	4.10	3.63
4	3.40	3.96	2.73	3.35	3.40	3.17	3.79	3.43	3.42	3.36
5	3.81	4.14	2.39	3.85	4.14	3.76	4.63	4.36	3.02	4.02
6	3.17	4.21	2.20	2.95	2.84	2.90	3.39	3.04	3.83	3.18
7	3.66	4.29	2.02	3.61	3.56	3.49	4.44	3.93	3.69	3.87
8	3.45	4.25	2.13	3.44	3.39	3.20	3.53	3.41	4.17	3.55
9	3.76	4.11	2.29	3.59	3.87	3.63	4.44	4.28	3.76	3.92
10	3.48	4.73	2.24	3.38	3.36	3.25	3.69	3.49	3.72	3.51
11	3.63	4.73	2.42	3.65	3.59	3.49	3.93	3.65	3.54	3.69
12	3.65	4.39	2.05	3.68	3.36	3.48	4.42	3.78	3.96	3.70
13	3.82	4.25	2.30	3.82	3.73	3.85	4.50	4.09	3.88	3.99
14	2.82	4.37	2.03	2.86	2.39	2.50	3.03	2.48	3.19	2.52
15	2.82	4.48	2.12	2.75	2.24	2.53	3.18	2.28	3.39	2.42
16	3.46	4.73	2.17	3.76	3.52	3.30	4.37	3.38	2.58	3.34
17	3.58	4.73	2.20	3.82	3.73	3.47	4.46	3.90	2.20	3.74
18	3.07	4.41	2.32	3.49	2.64	2.85	3.42	3.01	2.49	3.01
19	3.14	4.28	2.15	3.60	2.81	2.72	3.49	3.04	3.04	3.11
20	3.60	4.18	2.13	3.75	3.29	3.62	4.26	3.69	3.67	3.80
21	3.49	4.33	2.03	3.46	3.47	3.40	4.03	3.66	3.53	3.54
22	3.58	4.22	2.08	3.80	3.60	3.68	4.22	3.75	3.16	3.69
23	3.55	4.30	1.88	3.44	3.50	3.38	4.18	3.76	3.81	3.70
24	3.49	4.39	2.04	3.68	3.53	3.37	4.04	3.68	3.28	3.43
25	4.09	4.84	1.80	4.30	4.30	4.07	4.59	4.38	4.21	4.30
26	4.01	4.88	2.14	4.28	4.06	3.85	4.35	4.31	3.97	4.23
27	4.18	4.87	2.22	4.55	4.33	4.22	4.71	4.51	3.78	4.41

平均	3.41	4.24	2.12	3.47	3.32	3.27	3.92	3.51	3.38	3.47
最小値	2.82	3.96	1.80	2.75	2.24	2.50	3.03	2.28	2.20	2.42
最大値	4.18	4.88	2.73	4.55	4.33	4.22	4.71	4.51	4.21	4.41

平成17年度平均 3.40 4.23 2.05 3.47 3.35 3.25 3.87 3.51 3.42 3.44

結果に関しては、学群長と当該授業担当の教員へ知らせる。また、全体の調査結果は群長が保管・管理する。

7)結果の利用および改善：個別の授業については当該教員が対応し、学群教育全体に関わる事項に関しては、学群教育計画・評価委員会をはじめとする当該機関で対応する。

8)実施への周知・協力：教員会議にて審議の上で、実施を決定すると共に、学生に周知する。

### 3. 授業評価の結果

表2がすべての授業の評価結果(ただし、評価対象科目と調査結果の番号は一致せずアトランダムに記載しており、さらに、同じ科目でも複数の曜日で実施している場合は、別々に評価している)である。授業によっては、一人で担当する授業、複数が担当する授業、毎回教員が代わるオムニバス方式の授業などが混在しているので、慎重な考察が必要である。

設問項目への回答結果は、平均値(最高値・最低値)において以下の通りであった。

まず、学生の自己評価についての4項目は、設問①：出・欠席、4.24 (4.88・3.96)、設問②：シラバス、2.12 (2.73・1.80)、設問③：授業への取り組み、3.47 (4.55・2.75)、設問④：内容理解度、3.32 (4.33・2.24)であった。

次に教員への授業評価についての5項目は、設問⑤：授業の計画性、工夫、準備、シラバスとの整合性、3.27 (4.22・2.50)、設問⑥：教員の意欲、3.92 (4.71・3.03)、設問⑦：教え方、説明の明確さ、3.51 (4.51・2.28)、設問⑧：学習環境(人数・教室規模など)、3.38 (4.41・2.20)、設問⑨：総合的な満足度、3.47 (4.41・2.42)であった。

これらの結果と、昨年度(平成17年度)の結果 設問①：4.23 (4.62・3.31)、設問②：2.05 (2.53・1.70)、設問③：3.47 (4.21・2.94)、設問④：3.35 (4.31・2.66)、設問⑤：3.25 (3.96・2.33)、設問⑥：3.87 (4.62・2.71)、設問⑦：3.51 (4.46・2.30)、設問⑧：3.42 (4.13・2.09)、設問⑨：3.44 (4.27・2.42)と、を比較しながら、学生の自己評価および授業評価に分け、特徴的な点だけをあげておく。

設問①の「出・欠席」状況について、全体の平均値が、4.24となっており、昨年と同様(4.23)に高い点であった。昨年の考察同様、本学では、学生の単位認定について、「学生の教育指導上における出

席時間数の重要性に鑑み、単位等の認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う」との規程があることが、高い平均値となったと推定される。

また、設問②の「シラバス」についても、平均値が、2.12となり、これも昨年同様(2.05)低い点であった。昨年度の報告において、シラバスの有効活用については、教育課程委員会や学生との協議を重ねて、その改善策を講じる必要を指摘していたが、残念ながら、その効果は大きくは現れていないと考えられ、さらなる検討が必要であろう。

同様に、他の設問においても、昨年度と小数点2桁目がわずかに違うだけであった。設問⑧の「学習環境(人数・教室規模など)」については、3.38と依然低い。授業評価実施時期が6～7月であったことから、自由記述欄にも、「暑い」、「教室が狭い」などの、意見が多く見られ、本年度実施中の改修工事等での来年以降の改善が期待される場所である。

### 4. 今後の課題

本年度と昨年度の評価実施科目が異なるにもかかわらず、授業評価、結果は平均値でみると上記のようにほとんど一致した。したがって、昨年度の報告において述べた、今後の課題としての、1)シラバスの活用法、2)学習環境の整備、3)授業評価実施科目を増やす必要性、4)授業評価の結果活用法、等に関しては、今年度も同様に当てはまるものと考えられる。昨年、今年と、いくつかのそれぞれ違う科目に対して授業評価を行ったが、本来的には、すべての科目について毎年実施して、同じ科目における年次データを蓄積して、その過程で、より具体的な授業改善策を検討すべきであると考えられる。今後、実施授業科目を増やすとともに、昨年述べた今後の課題に関しても、具体的に解決していくいっそうの努力が必要とされる。

また、来年度からは、全学の委員会として、FD(ファカルティ・デベロップメント)委員会が発足し、それに連動する形で、体育専門学群内にも同じ委員会を発足させる予定になっている。来年度末には、体芸棟の改修がすべて終わり、格段に学習環境が良くなることが予想され、授業への施設・設備のハード面の充実が進むことから、今後は、授業方法などのソフト面への取り組みが求

められることになるだろう。

なお、来年度は、専門実技関係の授業評価を行う予定であることを申し添えて、今年度の授業評価の報告にしたい。

#### 参考文献

近藤良享、長谷川悦示(2006):平成17年度体育専門学群における授業評価結果と今後の課題 筑波大学体育科学系紀要、29:97-102.